

船舶事故調査報告書

平成29年1月19日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

| | |
|---|--|
| 事故種類 | 火災 |
| 発生日時 | 平成28年9月22日 02時50分ごろ |
| 発生場所 | 福岡県宗像市地ノ島北方沖 倉良瀬灯台から真方位037° 1.8海里（M）付近 （概位 北緯33° 56.6′ 東経130° 29.9′） |
| 事故の概要 | 漁船 ^{かのう} 叶丸は、航行中、火災が発生した。 叶丸は、機関室等に焼損を生じて沈没した。 |
| 事故調査の経過 | 平成28年9月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 |
| 事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等 | 漁船 叶丸、4.9トン FO3-33051（漁船登録番号）、個人所有 12.57m（Lr）×2.73m×0.91m、FRP ディーゼル機関、220.65kW、平成元年4月29日 第290-63491号（船舶検査済票の番号） |
| 乗組員等に関する情報 | 船長 男性 63歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成16年4月30日 免許証交付日 平成26年4月21日 （平成31年5月5日まで有効） |
| 死傷者等 | なし |
| 損傷 | 機関室、操舵室等に焼損、沈没（全損） |
| 気象・海象 | 気象：天気 曇り、風向 北北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.4m |
| 事故の経過 | 本船は、船長が1人で乗り組み、平成28年9月22日02時30分ごろ、宗像市沖ノ島東方沖でいか一本釣り漁を行う目的で、同市鐘崎漁港を出港し、地ノ島北方沖を約10ノットの対地速力で自動操舵により航行していた。 船長は、02時50分ごろ、異臭がするので不審に思い、機関室を点検しようとして操舵室左舷側床のハッチを開けたところ、激しく黒煙が噴出し、火炎が見えたので、直ちに主機を停止した。 本船は、船長が無線で僚船に救援を依頼した直後に電源が喪失し |

| | |
|---|---|
| | <p>た。</p> <p>船長は、操舵室に備え付けられていた持運び式粉末消火器で消火を試みたが火勢が衰えず、操舵室等に延焼したので、救命胴衣を着用して海に飛び込み、来援した僚船に救助された。</p> <p>僚船の船長は、海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇による消火活動で鎮火したものの、その後、放水による滞留水の影響で、海上保安庁の職員等が監視する中、04時53分ごろ本事故発生場所付近で沈没した。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p> |
| その他の事項 | <p>本船は、軽油を使用する過給機付4サイクル6シリンダのディーゼル機関が機関室の中央に据付けられていた。</p> <p>本船は、本事故発生直前まで、主機、自動操舵装置、レーダー、GPSプロッター、魚群探知機等に異常はなく、法定灯火を表示して航行していた。</p> <p>船長は、出火時に気付いた異臭が、燃料油、潤滑油、プラスチック、ビニール、ゴム類等が燃えたときの臭いとはいずれも異なっていると思った。</p> |
| 分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析 | <p>不明</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、地ノ島北方沖を航行中、機関室から出火したものと考えられる。</p> <p>本船が沈没したことから、出火するに至った状況を明らかにすることはできなかった。</p> |
| 原因 | <p>本事故は、夜間、本船が、地ノ島北方沖を航行中、機関室から出火したものと考えられる。</p> |
| 参考 | <p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出港前に機関室の点検を行い、機器の作動状況を確認して不具合を早期に発見できるようにすること。 ・ 自動拡散型消火器又は火災探知装置など検査機関が適当と認める消火装置を備えること。 |

付図1 事故発生場所概略図

